

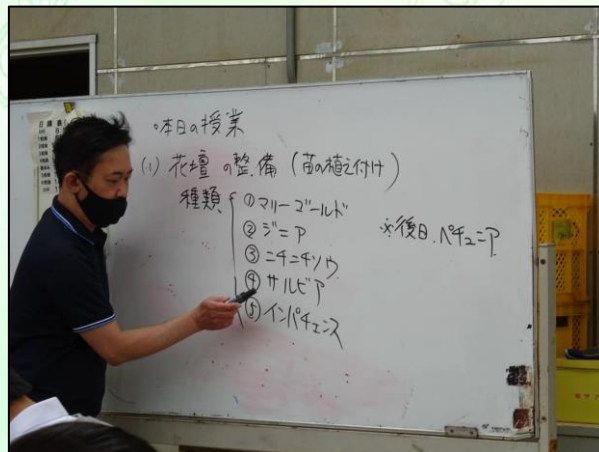
普通科3年生が「植物デザイン」の授業を和田キャンパスで受けています

毎週火曜日の午後、昼食を終えた普通科の生徒たちが、入江キャンパスから歩いて和田キャンパスへ向かいます。普通科向けの選択授業の中から農業科の科目を選んだ生徒たちです。

普通科と都市農業科を合わせ持つ本校ならではの特色ある授業のなかから、「植物デザイン」(新カリキュラムでは「生物活用」に名称変更)の授業風景をご紹介します。



「植物デザイン」というのは、植物を活用したデザインの知識を学ぶ授業で、花をメインに、「花束・アレンジメント・寄せ植え・花壇・コサージュ・ドライフラワー・リース・生け花」などを実習します。他にも種まきや挿し木の方法など、草花の生産から利用までを、一貫して学ぶ内容になっています。



色相環などを使って学んだ色彩デザインの知識を活かして、花壇の配色を考えます。自由闊達にアイデアを出し合いながら、実際に植え付けを進めます。都市農業科の生徒が、慣れた手つきでメジャーを扱い植える苗を配置すると、普通科の生徒も積極的に植え付け作業を進めます。

梅雨の晴れ間をねらって、少しずつ花壇を完成させていきます。



また、植物デザインの授業で作られたキッチンハーブや花の寄せ植えは、翌日の直売で販売されることもあります。一生懸命に作った寄せ植えがお客様の手に届いて、もっと喜んでもらうためにポップを作りたい！という生徒の声に応じて、手作りポップの授業も行われました。



できあがったポップは、翌日の直売でお客様をひきつけて、売り上げにも大きく貢献しました。

